特集4 移住と発酵

かぁちゃん工房 代表 大谷 りえ

【まさかの移住】

『俺が継ごうか?』今でも鮮明に覚えている。衝撃的な一言。この言葉の意味を理解するのに、私は何度も旦那に聞き返した。

私は幼少期からみかん農家の娘として育ち、みかんが大好きで、手が黄色くなるまで食べていた。通学路には、みかんの木があり、のどが乾いたらみかんをもぎとり水分補給をする。朝は、祖父が獲ってきた魚と、祖母が畑で育てた野菜を食べ、水道水は井戸水で、虫の鳴き声を聞きながら寝起きをしていた。

そんな、原風景が今も残るのが、私が住んでいる愛媛県西予市明浜町である。

この町に2021年4月にUターンし、地域おこし協力隊になった。

その時、私は妊娠6か月。大阪で同居していたお姑さんと旦那、三姉妹と共に移住し、田舎暮らしをスタートさせた。

移住のきっかけは、2019年に起った西日本豪雨である。

パパと子どもたち

実家のみかん農家は、昔は祖父母がやっていたが、その頃、母が一人で切り盛りしている状態だった。その時誰もみかん農家を継ぐ人はいなかった。私自身も、もうみかん食べられなくなるのか・・と思っていた。

その矢先に、冒頭の一言を旦那に言われたのだ。『俺が継ごうか?』と。

私は、長男の嫁、大阪の実家にお姑さんと同居していたため、まさか、大好きな愛媛に帰る道があるなんて。思いもしなかったビッグサプライズに歓喜の舞を踊ったのだ。

これをきっかけに愛媛に移住した私は、その時発酵調味料にハマっていた。

渡江歌舞伎くずしに参加

両親とみかん山

【発酵との出会い】

娘が3歳の時に出会った麹は、私の人生を大きく変えたものだった。

なぜなら私は、高校2年でバセドウ病を発症し、2年間ドクターストップで体育が出来なかった過去がある。そう、私は一度健康を失っているのだ。

この経験をしたおかげで、10代から健康にアンテナを張り、健康を取り戻すためにどうしたら良いか考える時間を人生の多くにあてた。

ここが私のターニングポイントとなり、今の活動に繋がっている。

愛媛に移住した後、地域おこし協力隊となり、発酵料理人であることを強みに地域の中で活動を始めた。

【清さんとの出会い】

その時、一人のおばぁちゃんが加工場を切り盛りしていることを聞き、会いに行くことになった。そこで出会ったのが、かぁちゃん工房の坂下清子さんだ。

坂下清子さんとかぁちゃん工房

清さんは、20年前に地域の婦人部に声を掛け、加工場を作り上げた人だ。代表作は、サツマイモとよもぎが練り込まれた芋餅。私も、その芋餅に惚れ込んでいた一人だ。まさか、その作り手と繋がることが出来るなんて思いもせず、お会いできて嬉しかったのを覚えている。

食の交流

清さんの芋餅

20年前、加工場が立ち上がった時は、清さん以外にも数人メンバーがいたそうだが、私が出会った頃は一人で切り盛りし続けているという状況だった。

清さんと出会ってから、二人の距離を縮めるのに時間は必要なかった。お互いが作る料理を食べ合うことで、どんどん好きになっていき、そうこうしていると、『この加工場を貴方に譲るわ!好きに使ってちょうだい』と言われたのだ。私はすごく嬉しくて、加工場を使ってこの町に貢献していきたいと強く思った。

そこから、私は地域おこし協力隊の補助金制度を利用し、加工場をリフォームした。地域の大工さんに施行してもらい、中の不用品を地域の方に手伝ってもらい処分、使いやすいようにキレイに変わっていく様子を見て、清さんと喜び合った。

そうこうしていると、メンバーが増えていき、加工場が完成する頃にはメンバーが7名に増えていた。メンバーのほとんどが移住者で、みな共通していたのが『健康』だった。

【繋ぐ伝統と健康】

そこから、私達かぁちゃん工房のメンバーは、それぞれの得意分野を活かし、発酵お弁当や発酵オードブルの注文を受けるようになっていった。

地元の物が好きで、作り手の顔が見える物を使いたく、地域で育った野菜、西予市産のお肉や魚、ひじきやちりめん、柑橘やフルーツなど、地産地消に力を入れ取り組んでいった。

そこが評価され、旅行ツアーに来たお客様向けのお弁当や、県外のお客様との交流会で仕出しを頼まれるようになった。

発酵オードブル

私はこの町を、住むだけで健康になる町にするのが夢である。

この町が大好きで、みんなこの町に住んで欲しいと思っているからこそ、無名のエース『明浜町』を食から知って頂き、ファンになってもらえるようなアプローチをしていきたいと思っている。

その為に、今このかぁちゃん工房のメンバーと共に、発酵ごはんをたくさん作っていきたい。

清さんが作る郷土料理を伝承していき、新たな発酵郷土料理が繋がっていくことを夢見て、今日も料理を作っている。

ずっとこの加工場を守り続けてきた清さんがこんな話をしてくれた。

『20年一人でやってきた末に、あなたたちが現れた。何度辞めようかと思ったか分からない。だけど、好きだから続けてきた。これは神様からのプレゼント。続けてよかった。』

この言葉を胸に、私も続けていこうと思う。

かぁちゃん工房のメンバーとタレントのゴリさん